

- (4) 硫酸塩 本品0.5gを量り、水約30mlを加えて溶かし、よく振り混ぜながら塩酸(1→4)3 mlを加え、ろ過し、水洗し、洗液をろ液に合わせ、水を加えて50mlとし、検液とし、試験を行う。比較液は、0.01N 硫酸0.40mlに塩酸(1→4)1 ml及びび水を加えて50mlとする。(SO₄として0.038%以下)
- (5) 重金属 本品2.0gを量り、試料とし、第2法より操作し、試験を行う。比較液には鉛標準液2.0mlを用いる。(Pbとして10 μ g/g以下)
- (6) ヒ素 本品0.25gを量り、試料とし、第1法により検液を調製し、試験を行う。

(As₂O₃として4 μ g/g以下)

乾燥減量 1.0%以下 (105 \pm 3時間)

定盤法 本品を乾燥し、その約0.3gを正確に量り、非水滴定用酢酸50mlを加え、0.1N 過塩素酸液で滴定する(指示薬 α -ナフトールベンゼン試液10滴)。終点は、液の褐色が緑色に変わるときとする。

0.1N 過塩素酸液 1 ml = 15.022 mg G₂H₄F₆O₇

タ ル ク

Talc

定 義 本品は、天然の含水ケイ酸マグネシウムを精製したもので、ときに少量のケイ酸アルミニウムを含む。

性 状 本品は、白〜灰白色の微細な結晶性粉末で、滑らかな触感をもち、においがな

い。

箱蓋試験 本品0.2gに無水炭酸ナトリウム0.9g及び無水炭酸カリウム1.3gを混和し、白金製又はニッケル製のるつぼに入れ、加熱して完全に融解する。冷却、熱湯約5 mlでピーカーに移し、泡が発生しなくなるまで塩酸を加えた後、更に塩酸10mlを加え、水浴上で蒸発乾燥する。冷却、水20mlを加えて煮沸し、ろ過するとき、ゲル状の物質が残る、ろ液は、マグネシウム塩の反応を呈する。

純度試験 (1) 水可溶物及び液性 本品10gを量り、水100mlを加え、蒸発する水を補いながら水浴上で時々振り混ぜながら2時間加熱し、冷却、直径47mmのメンブランフィルター(孔径0.45 μ m)を装着したフィルターホルダーを用いて吸引ろ過する。ろ液が濁っているときは、同一フィルターで吸引ろ過を繰り返す。容器及びフィルター上の残留物は、水で洗い、洗液をろ液に合わせ、水を加えて100mlとし、これをA液とすると、その液のpHは、6.0~8.0である。A液50mlを量り、蒸発乾燥し、残留物を

105 \pm 2時間乾燥するとき、10mg以下である。(0.2%以下)

(2) 塩酸可溶物 本品1.0gを量り、塩酸(1→4)20mlを加え、50 \pm 15分間振り混ぜながら加熱し、冷却ろ過する。容器及びろ紙上の残留物は、少量の水で洗い、洗液をろ液に合わせ、更に水を加えて20mlとする。この液10mlを量り、硫酸(1→20)1 mlを加えて蒸発乾燥し、更に恒量になるまで550 \pm 強熱するとき、残留物は、10mg以下である。(2%以下)

(3) 重金属 本品1.0gを量り、塩酸(1→4)8 ml及び水10mlを加えてよく振り混ぜた後、穏やかに煮沸し、冷却ろ過する。残留物を水で洗い、洗液をろ液に合わせ、更に水を加えて50mlとし、B液とする。B液25mlを量り、水浴上で蒸発乾燥した後、酢酸(1→20)2 ml及び水20mlを加えて溶かし、必要があればろ過し、水を加えて50mlとし、検液とし、試験を行う。比較液は、鉛標準液2.0mlに酢酸(1→20)2 ml及び水を加えて50mlとする。(Pbとして40 μ g/g以下)

(4) 水溶性鉄 (1)のA液20mlを量り、塩酸で弱酸性とし、新たに調製したフェロシアン化カリウム溶液(1→10)1滴を加えるとき、青色を呈さない。

(5) 鉛 (3)のB液25mlを量り、水浴上で蒸発乾燥した後、塩酸(1→10)を加えて溶かして10mlとし、検液とし、試験を行う。比較液は、鉛標準液1.0mlに塩酸(1→10)を加えて20mlとする。(10 μ g/g以下)

(6) ヒ素 本品0.25gを量り、塩酸(1→4)5 mlを加え、よく振り混ぜながら煮沸するまで徐々に加熱し、速やかに冷却した後ろ過する。残留物を塩酸(1→4)5 ml、次に水10mlで洗い、洗液をろ液に合わせ、検液とし、試験を行う。(As₂O₃として4 μ g/g以下)

強熱減量 6.0%以下 (550 \pm 恒重)

タール色素の製剤

Preparations of Tar Colors

確認試験 次の表の第1欄に掲げるタール色素の区分に応じ、それぞれ同表の第2欄に掲げる操作を行う。この操作により得られたはん点及びそのタール色素の標準品を用いて同様に操作して得られたはん点について、両者を比較する。